

もんじゅ あきらめない

これからどうするか？
が検討されている「もんじゅ」について

叱責するよりも褒めて育てることも
効果的な教育方法の一つである。

参考資料①
2016年9月23日
「高速増殖炉もんじゅの
有効な活用について
(見解)」
本ポスターシリーズ
2016年9月30日でも紹介

と言っていた日本原子力学会。
2016年11月22日、さらにもう一つ提言

(参考資料②)

「もんじゅ」の意義と活用に関する提言

もんじゅを有効に活用し、
将来の高速炉サイクルの実現につなげていくために、
原型炉もんじゅにふさわしい
新規制基準の策定に係る検討に速やかに着手し、
もんじゅの安全性を改めて確認した上で、
研究開発投資を最小化する方策の検討、更に、
国際的な高速炉の安全基準策定の活動に
貢献することを提言する。

ウラン資源の有効利用と
高レベル放射性廃棄物の発生量と有害度の低減を
両立させ、環境と調和させながら
持続的に原子力エネルギーの利用を行うためには、
高速増殖炉サイクルの開発・実用化は不可欠である。

原型炉もんじゅの設計・建設には
貴重な国費が注がれている。
もんじゅ研究計画の定める
もんじゅの使命と役割とを尊重し、
もんじゅを有効に活用し、
将来の高速炉サイクルの実現につなげていくために、
運転経験の蓄積が不可欠であることに論を俟たない。

「論を俟（ま）たない」
= ことさら論じるまでもない
(大辞林)

「論を俟たない」って。。。そういえば
もんじゅを『廃炉を含めた抜本的見直し』と言った
こちらの文書にもこんなこと書いてありました。

2016年9月21日

今後の高速炉開発の進め方について

(参考資料③)

我が国は、
「エネルギー基本計画」に基づき、
核燃料サイクルを推進するとともに、
高速炉の研究開発に取り組むとの方針を堅持する。

さらにさかのぼれば

2014年4月

エネルギー基本計画

(参考資料④)

我が国は、資源の有効利用、
高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度低減等の
観点から、使用済燃料を再処理し、
回収されるプルトニウム等を有効利用する
核燃料サイクルの推進を基本の方針としている。

最後に一言

ともかく、核燃料サイクル推進は関係者の中で既定路線です。そこに「もんじゅ」を使うか使わないか、は議論されていますが、前提条件である核燃料サイクルの存廃については議論にすらなりません。でも本来は核燃料サイクルを推進するかどうか？を議論することこそがスタートのはずです。「もんじゅ」がどうなったにしても、核燃料サイクル推進の既定路線を変えずに次のステップが始まってしまおうという意味では、これまで以上に悪い方向に進むこととなります。

参考資料

①日本原子力学会HP 高速増殖原型炉もんじゅの有効な活用について（見解）
http://www.aesj.net/post_pr20160923
②日本原子力学会HP 「もんじゅ」の意義と活用に関する提言（新型炉部会）
http://www.aesj.net/post_pr20161122

③内閣官房HP 原子力関係閣僚会議（第5回）議事次第
http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/genshiryoku_kakuryo_kaigi/dai5/gijisidai.html
④経産省HP 新しいエネルギー基本計画が閣議決定されました
<http://www.meti.go.jp/press/2014/04/20140411001/20140411001.html>